

平成 28 年 10 月 5 日

釜石市議会議長 佐々木 義昭 様

会派名 清流会  
報告者 菊池 秀明



### 会派合同視察報告書

2 会派所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1. 視察項目：
  - 1) 黒部市新庁舎建設基本構想について（富山県黒部市）
  - 2) 定住促進事業について（長野県大町市）
  - 3) 菅平スポーツランドサニアパークを視察（長野県上田市）
  - 4) 上田市健康づくり 健康チャレンジポイント制度について

2 観察日程： 平成 28 年 7 月 20 日（水）～7 月 23 日（土）

3 参加者： 清流会 菊池 秀明 平野 弘之 佐々木 聰 大林 正英  
民政クラブ 松坂 喜史 遠藤 幸徳



## 4 研修概要

### 1) 黒部市新庁舎建設基本構想について

研修日： 平成 28 年 7 月 20 日 午後 3 時 15 分～午後 4 時 45 分

研修課題 「黒部市新庁舎建設基本構想について」 庁舎内見学

視察先対応者	黒部市市議会	議長 木島信秋
	総務企画部総務課	主幹 橋本正則
	議会事務局議事調査課	主事 栗山久範

### 視察に取り上げた理由

#### 「黒部市新庁舎建設基本構想について」

釜石市における新庁舎建設の取り組みは、昭和 61 年 11 月に釜石市庁舎建設検討委員会が設置された。今からおよそ 30 年も過去のことである。

平成 3 年から庁舎建設の基金を毎年積み立てたものの病院統合のため取り崩しで残高が 2 億円まで減少した。(平成 27 年度末時点で 15 億円を超えてる)

また東日本大震災発災によって市民の生活を最優先課題としてきたが復興の着地点が少しづつ見えてきたことにより市民に対しての行政サービス向上と言う課題が浮上するのは明らかである。

現在の分散された庁舎、駐車場スペース不足、バリアフリー化など市民が利用しやすく親しみをもって来庁できる新庁舎建設は急務であると考え視察することとした。

### 黒部市の概要

#### 位置・地勢

黒部市は富山県北東部に位置し北から東には入善町・朝日町・長野県の県境が南から西は魚津市・上市町・立山町に接しており面積は 427.96k m<sup>2</sup>で富山県の約 10% を占めます。黒部市の地形は北アルプスから富山湾まで約 3.000m の標高差があり高山帯から低山帯さらに黒部川の広大な扇状地、富山湾沿岸部など変化に富んでいます。

黒部市の人口 41,870 人

黒部市新庁舎開庁 平成 27 年 10 月 13 日

## 【主な質疑応答】

Q 新庁舎建設までの道のりはどうだったのか？

A 旧庁舎は2つの庁舎に分散していたため市民の利便性や業務効率の面で弊害があった。なおかつ建築後38年から59年が経過しているため老朽化や耐震性の問題もあった。こうした背景の中で平成19年に基本構想（新庁舎建設を重点プロジェクトとする）が市議会の議決を得た。その後の経過としてタウンミーティング4回、新庁舎建設府内研究会4回、先進事例視察、新庁舎建設検討委員会6回などを開催して市全体の合意形成を図った。特に新庁舎建設候補地については検討委員会で3つに絞込み長所・短所を報告書にまとめてタウンミーティングのテーマとして幅広く市民の意見聴取に努めた。

Q 建設地を選定する上でうまくいった点は何か？

A 駅とショッピングセンターの間に位置しており、通り道感覚で立ち寄ることができる。公共施設も隣接している。

Q これから新設しようとする自治体にアドバイスは？

A 空調設備は熟考することを、おすすめする。業務時間とフロア（部屋）毎に切り替え出来るようにするなど。

Q 新庁舎建設における府内で、できるコスト削減は？

A それまで使っていた机、椅子などの備品を有効活用する。

Q 憇いの場としての新庁舎にする工夫は？

A 市民に開放することが重要で、予約不要、無料開放ルームを設置した。

A 休日には庁舎駐車場を産直やフリーマーケットなどイベント開催している。

Q 利便性の高い新庁舎にする工夫は？

A 冬季は積雪が多いため交流棟の1階を駐車場にすることで高齢者も安心して来庁することができる。

## 民政クラブ・清流会合同視察報告



富山県黒部市新庁舎前



1階窓口フロア（各窓口には番号表示されて市民に分かりやすい）

## 行政視察所感

現在釜石市においては「市新庁舎建設検討委員会」の初会合が7月26日を開催された。

新聞報道によるとこの委員会で山崎委員長は「新庁舎への市民の関心は高い。将来に禍根を残さないように議論を進めたい」と発言している。

また委員からは地域住民への周知・徹底の必要性を訴える意見も出たとしている。

今回、視察研修を受け入れていただいた黒部市においても新庁舎建設までの道のりは平坦ではなかった事が視察研修を通して理解できる。事業費に合併特例債を活用するため期限があったためである。

老朽化した庁舎は自治体にとって大きな課題であり新庁舎建設は重要かつ優先課題である。

「形あるものはいつか壊れる」と言うように人工構造物は時間の経過とともに変化（劣化）し、その物の目的やニーズに対応できなくなる。

全国的に見ると、建設地、耐震基準、防災拠点、交通の便、景観、バリアフリー、授乳室、キッズスペース、駐車場スペース、イベントスペース地域性、併設もしくは隣接する民間施設などのハード面を充実させることや新庁舎建設後にぎわい、親しみ、憩いと言ったソフト面の方策も重要であると感じた。

黒部市新庁舎は行政棟と交流棟があり（建物は繋がっている）交流棟はその名の通り市民の交流を促す目的があり予約不要・使用無料のスペースでは高校生が自主学習に励み、市民交流サロンでは地域サークルの方々が活動を展開していた。屋上テラスからは北アルプスの眺望を楽しむことができる。何より印象深いのは「市民から新庁舎の評判は？」との質問に対して「市民から喜ばれていますよ」と返って来たことだ。

行政として市民のニーズを正確にくみ取り、それを新庁舎と言うかたちにできたことは尊敬に値する。

視察した議員のひとりとしてこの先進事例から多くを学び当市の新庁舎建設に注力します。

また黒部市議会は東日本大震災後の当市に視察に訪れ惨状を目の当たりにした、とのことでした。野田市長が対応してくれた事や釜石市を応援しているとのお言葉をいただき心のこもった歓迎を受けました。

## 2) 定住促進事業について

○ 研修日 : 平成 28 年 7 月 21 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

○ 研修課題 : 定住促進事業について

○ 観察先対応者 : 大町市議会 副議長 岡 秀子  
総務部まちづくり交流課 粕野 礼二

○ 観察先選定理由 : 定住促進事業について

釜石市における定住促進の取り組みの起点は、経済の拡大期待が得られない中で、人口減少を感じていた最中で受けた震災であり、そこからの復興という特段の困難な状況下で事業実施が求められることである。当市では各地方自治体にも見られる定住促進に関わる住宅条例などの他にも、平成 27 年度を初年度とする「釜石市版総合戦略」5 カ年計画において「定住促進かまいし魅力体験事業」などを設け、地方移住を志望する都市住民や、地域おこし協力隊・復興支援員等を対象とする研修プログラムを以て、多種多様な世代の UI ターンを促進とともに、履修者のネットワーク化を図ることで「観光地」から新たな「関係地」として、釜石地域全体の価値向上を目指す事を目的として事業を実施してきている。

今時、同様の行政規模を形成されている大町市における定住促進事業について知見を伺う。

○ 大町市概要 (配布資料) :

- 概要

長野県の北西部に位置する内陸都市で、北は白馬村、東は長野市、小川村、南東は池田町および松川村に接し、南西は安曇野市、西は富山県や岐阜県に接する。市の西部には鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳など 3,000m 級の北アルプスの山々が連なる (面積: 565km<sup>2</sup>)。

人口は、昭和 35 年の 41,184 人をピークに減少が始まり、減少率は 7.3% と県下 19 市町の中で最も高い (平成 28 年 4 月 1 日現在 28,666 人(11,801 世帯))。65 歳以上人口 9,983 人 (34.835)。議員定数 16 人。平成 29 年 6 月に北アルプス国際芸術祭を挙行予定。

- 配布資料

- (1) 定住促進ビジョンの推進\_定住促進プロジェクト\_長野県大町市
- (2) 大町市のあらまし (平成 28 年度)\_大町市議会事務局
- (3) おおまち市議会だより (No.161) ほか

○ 主な質疑

Q1) 定住促進プロジェクト（第4次総合計画 平成24年度～28年度）について  
A1)

- (1) 市の現状・課題 => 人口の減少、少子高齢社会、出生数の減、未婚化や晩婚化の進展
- (2) プロジェクト概要 => 数値目標：人口 30,000 人、年間転入者総数：942→1,100 人、空き家バンク物件数：2→50 件、未婚率：35.7%→30.0%
- (3) 推進体制 => 定住促進係：専従 3 名（内、派遣 1 名）、移住アドバイザー 7 名、市民協働の組織運営\_定住促進協働会議
- (4) ビジョン => 美しく豊かな自然 文化的風薫る きらり輝くおおまち
- (5) 大町市定住促進協働会議 => 市民と行政の協働による推進組織として、市内定住の促進による地域の活性化を目指し、市民、行政、関係団体等が連携・協働して市内定住人口の維持、増加に向けた取り組みを実施している。

Q2)（定住促進について）情報発信の強化ポイントは

A2) ふるさと回帰支援センターを積極活用している。若者の地方志向がはっきりとしてきており、移住希望者の相談件数も増加傾向にある（平成26年度実績：移住人数\_32世帯 62人、相談件数：535件（延べ回数））。特徴としては、Uターンが急激に増えていること。もともと、移住希望者は圧倒的にIターンが7割以上と多かったが、2011年の東日本大震災以後は少しづつではあるがUターンが増加し、現状は全体の35%にも達している。これは、地域の「絆」が見直されるとともに、各所に移住者が点在し始め、「では自分も」とUターンするというケースにつながっているものと推測している。

Q3) 子育てしやすい環境整備について

A3) 施設を充実させており待機児童なし（認定こども保育園 2（私立幼稚園 1）、小学校 6、中学校 4 校）。また「信州型コミュニティスクール」として、各学校が地域との間に築き上げてきた土台の上に、新たに(1)学校運営参画(2)学校支援(3)学校評価機能を一体的・持続的に実施する仕組みを構築し、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めている。市長も市民参加型、協働の運営を市の再優先理念として表明されており、特に副読本「ふるさと\_きのう・きょう・あした」を活用した郷土学習を推進している。

Q4) 産婦人科医の存在が定住化促進に寄与しているか

Q4) 産科・小児科を含む市立総合病院を運営している。ただし、常勤医師不足と

分娩休止の影響などのため入院収入が見込めないことから、昨年度も 4 億 5 千万円の赤字経常予算となっており、より一層の業務効率化や改善に努力をしていく所存。

Q5) 空き家バンクの実績

Q5) 平成 20 年度から開始しており、昨年度は実績 2 件(平成 28 年度は 50 件を目標に)。今年度は地域の不動産会社 4 社が地域の資産価値向上に繋がると認識し積極的に関与している。市は空き家改修事業補助(平成 27 年度より実施)等でサポートしている。

Q6) 結婚支援事業について

A6) 未婚率 35.7% を 30% にするべく、考えられる多くの事業を実施している(資料参照)。

Q7) 北アルプス国際芸術祭を予定しているが、「オール大町」でのおもてなしの推進とは

A7) 開催に向けての準備、案内、「食」によるおもてなしの全て、また地域の魅力を伝えること、作品の資材調達や製作作業への協力など。市民自らの意思で自主的、積極的に関わることが寛容。芸術祭の全容を早急に具体化し、市民へ情報提供して関心を持っていただくことで実現すると考えている。

○ 行政視察所感

釜石市では 2015 年 11 月に「釜石市オープンシティ戦略(釜石市総合戦略)」を公表し、将来のまちの進路を示す羅針盤となる施策として、市民だけでなく釜石との関わりを有するすべての人々(=つながり人口)がまちの活力を生むという将来像を描いている。人口減少社会において、地域経済とコミュニティを活性化させるカギの 1 つである交流人口をどう増加させるか思考していく過程において、大町市における定住促進にかける各種施策の活動経緯や実績について、主な質疑で記したような知見を研修できたことは大いに参考になった。視察した議員の一人として当市の総合戦略の先進性を、他市へ向けて示すことができるような成果を示せるよう鋭意精進してまいりたい。

### 3) 菅平スポーツランドサニアパークを視察

研修日：平成28年7月22日 午前10時30分～午前11時30分

研修課題 菅平スポーツランドサニアパークを視察

視察先対応者 宮崎忠博（菅平スポーツランド所長）

研修に取りあげた理由

2019年ラグビーWCの開催都市に選定された釜石市にとって施設整備は最優先課題ですが、大会終了後の施設利用より懸念される。スポーツを産業と捉えるならば、ラグビー合宿の聖地と言われる菅平を視察し見識を深め、釜石の今後のあり方の参考にしたい。

視察先の説明 宮崎忠博

菅平は標高約1500mに位置し、夏場のスポーツ合宿には最適な環境であります。施設の規模は管理センターを中心としてメーングラウンドと周辺をA、B、C、Dと4面のグラウンドが整備され、それぞれのグラウンドが天然芝でつくられており、練習グラウンドとしては使用されず、試合を中心に利用予定が組まれ、併設されている陸上競技場は第三種公認の競技施設で、全天候型400メータートラック8コースを備え、主に学生や実業団チームを中心に利用されており、球技利用者を含めるとトップシーズン（7月～8月）には2,000人を超える若者で大変なにぎわいになります。この地区には市営を含めたグラウンドが104面あるが、それぞれの宿泊施設が練習グラウンドを4面から5面を保有し、練習は各自の施設で行われ、市営グラウンドは試合のみに使用されるため、天然芝グラウンドの管理は行き届いております。

視察所見

「サニア」は「太陽に近い」Sun nearからの造語で、さわやかな高原をイメージして命名されたとのことです。

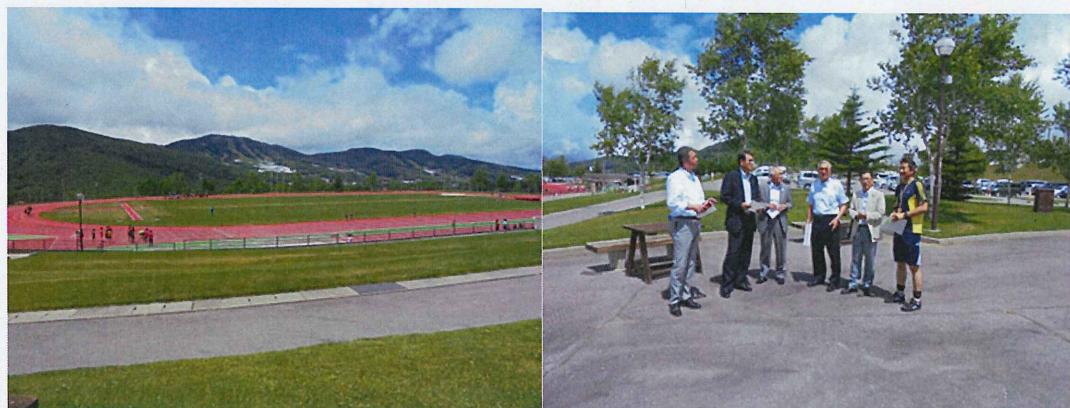
実際に現地に到着するまでには木々に囲まれた道路をのぼり、車から降りるときれいな空気、降り注ぐ日差しに迎えられました。

まさにフィールドプレイヤーにとっては充実した練習環境が完璧に近い状態であると認識しました。

上田市の地理的長所を活かした地域経済振興策はスポーツ合宿誘致という形で功を成し、地元宿泊施設事業者との官民共働も着目すべきである。地元に経済波及効果をもたらすことで事業者が積極的に施設運営に関わっているからだ。

上田市は地方創生加速化交付金にて「スポーツツーリズム推進事業」を展開し市政目標に掲げる「健幸都市」の実現を目指している。

当市においてもこの取り組みは今後の市政運営施策に重要な要素を持っており有意義な行政視察であった。



菅平スポーツランドサニアパークを視察

#### 4) 上田市健康づくり 健康チャレンジポイント制度について

研修日 : 平成 28 年 7 月 22 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

研修課題 上田市健康づくり 健康チャレンジポイント制度について

視察先対応者 上田市議会議員 尾島 勝

石井 正俊 (健康推進課長)

中山 雄次 (健康推進係長) 川口 由起子 (健康施策係長)

視察に取り上げた理由

健康チャレンジポイント制度について

昭和 38 年から人口減少が右肩下がり、少子高齢化が進むなか釜石市は 65 歳以上が人口の 35 % を上回っている。人口減少に歯止めがかからない状況下、福祉行政において、今後の医療費や介護保険費の抑制は大きな課題あります。高齢者の健康が大きく関係すると思われることから高齢者の健康づくりに取り組む先進地の上田市のヘルスプロモーション事業を視察研修して、今年度から始まる釜石健康チャレンジポイント事業推進の見識を深めたい。

視察先の歓迎のあいさつ

尾島 勝 観光産業議員連盟

上田市は釜石市と共にラグビーの街であります。釜石市はラグビーの聖地として、当市はそのラグビー合宿の聖地であります。上田市は合併して 10 年人口は約 16 万人であります。議員は 30 人で、常任委員会は 4 委員会ですがそのほかに議員連盟活動が活発です。農業、川、道、森林、観光、スポーツに関する 6 つの議員連盟組織があります。活動の財源は自らの自主拠出です。観光議連では宿泊業者と協議して全国の自治体の議員すべてに観光パンフレットを送付しております。そのかいがありまして今年度は観光客は真田丸の効果もあり増加しております。すべては上田市の活性化と思っております。

今回の視察が両市に有意義であることを念願として歓迎の言葉とします。

視察先の説明

中山 雄次 (健康推進係長)

上田市は国保特定検診の結果では、糖尿病が懸念される人の割合が、国や県と比べてもとても多い状態です。糖尿病等の生活習慣病の該当者、予備軍が増加傾向にあり、生活習慣病の医療費も増加しております。

医療技術が高度化し平均寿命が伸びているが、高齢になっても心身ともに自立して暮らすことのできる期間、いわゆる健康寿命を延ばすことが重要であります。しかしながら現状は健康づくりに関心のない市民も多く、検診受診率は37.5%で決して高いとは言えません。検診受診率を高め健康づくり支援を構築したいと思っております。

上田市は10年後の超高齢化社会を見据えた健康づくりを推進しております。

10年後の将来像として一人ひとりがライフスタイルに合った幸福を感じ、いきいきと健康に暮らせるまち、健（幸）康（福）都市をめざしています。健康チャレンジポイントにつきましては、上田市ヘルスプロモーション事業のスマートウェルネスシティ～健康幸福都市をめざして～健康幸せづくりプロジェクトの冊子（添付資料）により順追って詳細に説明された。

### 【主な質疑応答】

Q 糖尿病等の生活習慣病の該当者や予備軍が多いと言われるが、大きな原因はいかにとらえていますか

A 的確な原因は不明ですが、地域の特徴の果樹栽培が産業であり日常からリンゴやブドウなどの糖度の高い果物の摂取量が多いことも原因のひとつと考えられます。家庭での果物の購買量も多いようです。上田市民は砂糖の使用量も多い。塩分も多く、味の濃いものを好んでいる傾向にある。

（釜石と限らず岩手は漬物等を好んで食する習慣があり、塩分摂取量が多く脳梗塞の罹患者も多い。減塩運動を展開している）

Q 釜石の高齢化率は35パーセントを超えており、上田市はいかほどですか。

A 上田市は28パーセントです。高齢者の検診率は高いが、壮年～若者の検診率は伸びてこない。7割の市民が検診に関心を持たない現状である。いかにして、健康に関心を持たせるかが大きな課題です。

Q あと7年から8年で団塊の世代が後期高齢者になりますが、釜石市は超高齢化社会になります。限られた財源の中、医療費負担がますます大きくなります。

今後の医療費抑制が重要となります。とにかく検診率を高め予防医療に关心を

抱かせる策として、見返りのある健康チャレンジポイント事業をスタートしました。

開始日は8月1日からです。見返りは市内の特定地域商品券です。御市ではポイントの見返りは公共施設無料利用券との交換であったり等、子供たちのためスポーツ用具購入に充てるなど社会貢献に活用する等、特色を出していますが、利用度はいかがか。

A 社会貢献の活用については、児童の保護者世代、いわゆる働き盛りの世代に検診の意識を持たせることであります。その活用は孫の教育施設の貢献で高齢者世代に使用されている。

Q 健康チャレンジポイントの制度の周知方については。

A 健康チャレンジポイントの制度のパンフは今年もリニュアルし、全戸に配布しているが関心のない人は資源ごみに化けてしまう。そのほか、報道機関やホームページに掲載し啓もうに努めている。今年3月に利用者が3,000人でしたが現在3,600人に増加している。とはいっても16万市民ですから自慢できる数字ではありませんが、全国的に見ても1,000人を超す自治体は数は少ない現状です。

市民の利用度は現在、紙ベースですのでデジタル化の必要性はあると思います。

Q 制度に参加している市民は3600人登録されているが、スタンプ処理の確認についての方法はどのようにしているのですか。

A スタンプはいろいろな処に配置している。検診会場や市内9か所の公民館にも置いている。スタンプの対象事業は沢山ありますので、簡単に処理できるアナログ的な方法をとっています。スタンプ処理はするが交換の件数は少ない状況です。交換の期限を決めていないことが原因なのかも知りませんので、今後の課題と思っております。

Q 健康チャレンジポイントの制度を展開するスタッフについてはどのようにしていますか。

A 健康推進課の政策担当のスタッフ10人で担当しております。市の担当する事業については職員が担当しています。そのほか総合型スポーツクラブのスタッフや体育協会のスタッフにも協力を得て適正な運用に努めている。

Q 健康チャレンジポイントの制度に参加者について、地域の格差はありますか。

A 参加者について、男女別、年齢別、地域別のデータの集計をしています。

男女別では、65%が女性、年齢では60代、地域別では人口の違いがありますが上田が多い結果です。資料を参考に願います。7割の市民の関心がありませんので、その住民への意識改革が今後の課題です。

### 行政視察所感

長野県上田市は日本のはほぼ中央に位置し面積552km<sup>2</sup>、県下ナンバー1の日照時間と降水量という果物・農産物の育成に適した街であり東京から78分でアクセスできるため観光やスポーツによる交流人口が街を潤している。

地域の特徴は果樹栽培が盛んで、質疑応答にもあるが糖尿病予備軍が多い原因と果樹摂取量について触れられている。人間、誰しも美味しいものが手軽に入手できる環境にいればそれが習慣になるものだ。

この健康課題を行政として積極的に取り組む姿勢に学ぶべき点は多々ある。

釜石市が取り組んでいる減塩についても長野県は全国に先駆けて減塩料理教室などを開催し実績を上げている。

上田市が課題として着眼した数値の中に「特定健診受診率が低いこと」と「1人あたりの医療費が高いこと」がある。(残念なことに当市はいずれの数値も上田市よりも悪い数値である)

上田市の健康チャレンジポイント制度事業は平成27年6月1日施行されており市民の3,000人以上が参加している。特筆する点は制度をリニューアル(見直し)して現状に合ったより良い制度にする努力をしていること。対象事業のウォーキングコースに地元観光名所を設定していること。付与ポイントの使い道として社会貢献(保育園、学校などへの還元)ができるところなどがあげられる。先進事例として「いいのものは取り入れる」という姿勢が大切であると思った。

### 研修風景

